

## 平成30年度新入学生宿泊研修

校長 中村 徹

2泊3日御殿場「国立中央青少年交流の家」の同じ屋根の下で、同じ釜の飯を食し、共に研修では「なりたい自分になる」ために、国、年齢の境もなく同期生同志、膝を付け合わせ、同じ目標の具現化のために、本学の学生としての「心構え」：「勉強と仕事を通して自己実現を図る」ことと、同志としての絆を確認しあい、ともに歩む「心の友」ができたことと思う。

さて、これからの学生生活において、この研修を通して得ることのできた方向性、目標を、「こだわりを持ってカタチにして行く」のです。「なりたい自分になる」ために、「自信」と「誇り」を持ち、①「明確な目的意識」、②「挨拶励行」、③「感謝の心」、④「ポジティブな姿勢」、⑤「想像・創造力」のある人材を目指せ！！

1年学年主任 青木 静香

新入生と共に過ごした御殿場宿泊研修も無事に終わりました。1年生のみなさん、本当にお疲れさまでした！欠席者が出てしまったことは残念ですが、参加学生は大きく体調を崩すこともなく、すべての活動に全員が顔を揃えるという素晴らしい研修になりましたね。

初日の「夕べのつどい」に集まった学生の表情は、不安の方が大きかったように感じました。しかし、夕食を終えクラスごとのTQC活動が始まると、笑顔が増えるにつれ付箋の数もどんどん増えていきました。それぞれの学科が、自分たちの個性を出そうと話し合っていたように感じました。「つどい」では、代表で挨拶をした学生たちも、緊張しながらも精いっぱい声を出そうという思いが感じられました。レクリエーションも含めた活動の中で、留学生ともお互いに学び合う姿があり、多くの共同活動を通して仲間と刺激し合いながら充実した3日間になったのではないのでしょうか。



最終日に「もう1泊したかった」という学生からの嬉しい言葉も聞くことができました。

戻った翌日から講義もスタートしています。気持ちを切り替えて、研修で何度も言われ続けた挨拶、思いやりを継続してください。それを習慣にし、まずは自信を持って発言できる自分に変わりましょう。

そして仲間と大いに楽しみながら、より良い方向に人生を変えていきましょう！

ゲーム応用学科 1年 漆畑 和真

私は、今回の研修を通してたくさんのことを学び仲間との親睦を深めると共に、新たなことに挑戦する事が出来ました。

特に印象に残った事は、礼儀やマナー、挨拶の大切さ、あとはメインのTQC活動です。自分の考えとは違うまた新たな方向からの意見を聞く事ができ、有意義で貴重な体験ができました。

マナー講座では先生方が悪い例と正しい作法の二つを実践していただき、目上の方や日々お世話になっている親への感謝、尊敬の気持ちを態度で表現していく事が大事だという事を学びました。

TQC活動では、一つの議題に対して仲間と話し合いを行う事で、様々な意見が生まれ、小さな疑問も一つ一つしっかりと解決していく事で、スムーズに結論を出す事ができました。

今後の生活でも、将来社会へ出ていくという事を踏まえた上で、目上の方や親への感謝、尊敬の気持ちを忘れる事なく、仲間との交流も深めていきたいです。

映像・音響デザイン学科 1年 藤田 真由佳

私は御殿場宿泊研修で仲間意識について感じ学びました。宿泊研修前までは、あまり会話のできていなかったクラスメイトの人達と集団行動を通して深く関わる事ができ、食事をする時や宿泊棟などでクラスメイトと行動していました。その中でも支度が遅れている人の分を仲間で助け合い、5分前行動をする事ができました。室長が困っている時は仲間で助け合い、思い遣り、気配りが自然に出来たことは、とても充実感が満たされました。

また、礼法やレクリエーションを通して人を思いやる心やコミュニケーションの大切さを学びました。どのような仕事にもこの2つは基礎であり、その上で、責任のある行動が取れるようになるのだと思います。コミュニケーションや責任感が身に付けば自信にも繋がり仕事も楽しく充実したものだと思います。私は、この2年間では宿泊研修で学んだことを活かし、特に、自分の行動に責任を持って行動する事を目標としています。





## 総合福祉学科 1年 野田 一颯

私は御殿場での研修に行くにあたって一つの目標を決めていました。それは卒業後の目標である多くの分野で活躍できる相談員になるために、必要なスキルやそれを手に入れるための手段を身につけることです。

礼法指導で相手への感謝の心とそれを伝えようとする心の大切さを説かれた時、自分が目指す相談員はこの二つを身につけることが必要だと気付きました。

TQC では出た意見を批判しないで受け取るようにすることで、主観的な考えに捉われること無く客観的に視点から物事を判断することができると知りました。

さらに不明点や曖昧な点は十分な議論をすることで考えをより深く強く共有できると分かりました。これらを手段として、また技術としてこれからの生活に取り入れ、自分の目指す理想の相談員になれるよう三年間努力していきます。

## 介護福祉学科 1年 荻野 鈴歌

この研修で「あいさつ」「礼儀」を改めて学ぶことができました。

まず、「あいさつ」です。今までは、知らない人に自分からあいさつをすることが苦手でしたが、心がけることであいさつを交わすことができました。その時ただ言うのではなく、気持ちを込めて表情も良くしていけば、お互いに気持ちが良いと感じたので、これから実践していきたいと思えます。

次に「礼儀」です。二日目に礼法を学び、自分の礼儀に対しての知識や考えが浅かったということに気づきました。私が目指す介護の仕事は自分より年長の方と接するので、思いやりの心を持って相手を敬うことで礼儀につながるということを学び、これから意識したいと思えます。

この研修で学んだことは、学校生活だけでなく、社会に出た時も大切にしていきたいと思う事ばかりでした。

## 子ども心理学科 1年 梅原 瑠生

私は、3日間の宿泊研修で様々なことを学びました。まず、TQC 活動では、学科ごとのグループに別れて『よりよい就職をするためには』というテーマのもと意見を出し合い、最終日には、まとめた意見を特性要因図という形で発表しました。この活動は、よりよい就職をするためにはどんな心構えや行動が必要なのかという疑問について、仲間の意見を聞ける貴重な体験であり、それと同時により良い就職をするために必要なことの明確なビジョンを描くことが出来ました。

次に、礼法の授業では、正しい礼儀を学びました。長時間の正座は大変でしたが、礼儀や作法の真の意味を知るとても有意義な時間でした。

私はこの研修で学んだ様々なことを活かして、仲間と協力し他人を敬う心を持って、自身の望む未来のために前向きな姿勢で学校生活を送りたいです。



## 就活も、皆さんの「成長プロセス」です

進路室長 橋野 幸男

前号で紹介した 日本経済新聞社『2019年春入社の採用計画 調査』の最終集計が、4月23日に記事掲載されました。概要は、下表のとおりです。

	今春実績比増減 (%)	うち、理工系 (%)
総合計	8.7	—
大卒計	8.5	15.5
短大・専門学校・高専卒計	<u>11.1</u>	<u>16.4</u>
高卒計	8.2	—

同記事では、「専門家の見方」として次のようなコメントが掲載されています。

- ・「企業の採用意欲は引き続き高く、特に IT 人材を巡る獲得競争は激しくなりそうだ。人工知能 (AI) やあらゆるモノがネットにつながる 'IoT' など技術革新が進み、理系学生の需要は底堅い。…」  
〔リクルートキャリア就職みらい研究所・増本全主任研究員〕
- ・「東京五輪が開催される 2020 年までは様々な業種で製品やサービスの需要拡大が見込まれている。そのため、企業の採用意欲も依然として強い。各社の採用予定数増は想定どおりだ。…」  
〔人材研究所・曾和利光社長〕

さて、「就職活動を通して成長する」「就活は、仕事のやり方を学ぶ絶好の機会だ」とは、多くの人が指摘していることです。物事に着手する前に計画を立てる、何が重要か優先順位を考える、つまりいたときにフォローアップする、相手に訴求したい点を分かりやすくまとめる。すべてで、学生が成長する可能性があります。

例えば、西山昭彦氏 (東京ガス→経営学博士→大学特任教授) は、Web 連載「日経 College Café」に『成長の方程式』として次のように書いています。

— 私の学生成長の式は、こうだ。

「成長 = 教育・勉強 + クラブ・サークル + アルバイト + 交友 + 就活」

このうち、就活が一番人を成長させる。なにしろ、戦略を立て全力でぶつかって、最後に合否がくだされる。「ニコニコして受けてくださいって言われて ES (エントリー・シート) 出したら、一発で落ちた」「グループワークで発言しようとしたら、××大生に遮られて、落ちた」などがごろごろ。これまでの人生でそんなシビアな機会はめったになく、この真剣勝負には真の学びがある。—

また、元・東レ経営研究所社長 佐々木常夫氏は、あるインタビューで次のように述べています。

— 人の能力に大きな差はない。大事なのは、『良い習慣は、才能を超える』ということだ。就職活動中から良い習慣を身に付けければ、就職後の仕事もうまくいくはずだ。—

皆さんが取り組んでいる「企業へのアピールを、履歴書やエントリー・シートにまとめる」作業は、社内の報告書や取引先向けプレゼンテーションの資料を作成することに通じます。「どの企業等が自分に合うかを考え調べる」作業も、取引先開拓や提携先を調査するときの行動に応用できます。

逆に言えば、就職活動という「考え、努力・行動する習慣」が身に付く機会を十分に活かさない者は、自分が成長できる絶好のチャンスを見逃していることになるのです。

さあ、地元中堅企業の「選考」がいよいよ本格化しています。皆さん、果敢にチャレンジしていきましょう。

## 電子情報 卒業生を囲む会



【お迎えした卒業生：3名】

小林 由季さん 結婚式場演出 (音響・照明・映像) H.24 年度卒  
後藤 悠之さん 車載用組込みシステム設計・開発 H.25 年度卒  
山田 裕子さん 音響技術 (イベント、コンサート等) H.15 年度卒

教頭・電子情報 学科長 有賀 浩

今年度も進路指導の一環として、「職業観」の向上及び「就職意識」の高揚を図るため、4月26日(木)、産業界で活躍中の卒業生3名をお迎えし、「卒業生を囲む会」を実施しました。

冒頭、校長先生より、就職活動本番を迎えた2年生、初めて専門的職業教育を受け始めて1か月を経た1年生、それぞれに向けて叱咤激励を頂きました。続いて、本学での「元気で明るい挨拶を基調とした全人教育」を共に受けた卒業生たちが、現在、仕事を通じてどのように自己実現を図りつつあるのか、専門的な仕事の魅力、やりがいリアルに伝えてくれました。また、卒業生に持参してもらった職場のイメージ写真や仕事で制作したムービーも見せて頂き、仕事のイメージ付け、仕事の理解を深めることができました。

全体会の後、卒業生一人ひとりと在校生グループによる分科会を実施。懐かしい在学中の楽しい思い出や就職活動の体験談、社会人の立場から後輩へのアドバイス、在校生からの質問に対する応答など、有意義な時間を共に過ごすことができました。

解散後、教員と卒業生との間でも情報交換を実施。産業界の現況やニーズ、本学教育課程への要望など貴重な情報を得ることができました。これらを反映すべく、カリキュラム編成やシラバス、授業内容のアップデートを図ります。

このように高い成果を残せましたこと、理事長・校長先生、卒業生の皆様に厚く感謝申し上げます。